

## 微量の血液で大腸がん発見

早期の大腸がんを数時間で見つける方法を、国立がん研究センターなどの研究チームが開発した。ごくわずかな血液で調べることができ、従来の方法よりも精度が高い。数年以内の実用化を目指すという。研究成果を英科学誌ネイチャー・コミュニケーションズ（電子版）に発表した。

センターの落谷孝広・分子細胞治療研究分野長らは、細胞が分泌する「エクソソーム」という微粒子に着目。大腸がん細胞のエクソソームに特異的に多く含まれる物

### 国立がんセンターなど開発

質を発見し、0.005ミリットルの血液からそれをとらえて光らせる方法を開発した。1時間半から3時間で検出できるという。

大腸がん患者194人の血液を調べたところ、約5割から検出。健康な191人から検出されたのは、1人だけだった。大腸がん特有のほかの物質も特定し、検査の精度をさらに上げることを目指すという。

国内で大腸がんになる人は胃がんの次に多く、近い将来に最も多くなると予測されている。がん患

者のうち、女性では大腸がんで亡くなる人が最も多い。

現在検診で利用される、便に含まれる血液を調べる便潜血検査は、陽性が出た人のうちがんだったのは約4%という調査もあり、精度が高くない。

落谷さんは「新しい方法は早期の大腸がんを発見するのに優れ、簡単で精度が高く、患者の負担を減らせる。早期診断が難しい膵臓がんや、がん以外の疾患の診断法にも応用できる可能性がある」と話している。

（伊藤綾）